

令和 8 年度 第 1 回学校運営協議会（議事録）

期日：令和 8 年 7 月 6 日（月）

時間：10：00～11：10

場所：会議室

○授業参観 10：00～10：30

○学校運営協議会 10：30～11：10

1 開会

2 学校長挨拶

この 4 月より本校にお世話になっています。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度、新入生 32 名、全校生徒は 93 名でスタートした。そのうち、寄宿舎生は 37 名である。県内、県北、沿岸部と広く県内から通ってきている。

先月 3 週間に渡る産業現場等実習と校内実習を実施した。本校の使命である職業教育の実践を経験した。先日は高校野球の入場行進のプラカードを加工生産科と流通・サービス科の協力で作成してきた。贈呈式や県大会の開会式で 3 名の生徒がプラカードを持ち、選手と一緒に行進する予定である。

本日は、学校運営協議会の皆様には学校経営や取組など本校の教育活動の更なる発展に向け、様々ご意見やご指導をお願いしたい。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

3 学校運営協議会委員、本校職員紹介

4 会長、副会長選出

事務局より会長に A 委員、副会長に D 委員を推薦したい。

A 委員より会長挨拶

着任早々、会長職を務めていくことになり身が引き締まる思いである。本協議会の推進に努めていきたい。

5 議事

（1）協議

① 令和 8 年学校経営計画について（資料 P 2 ～ P 3）

（学校より説明）

本校の教育理念について資料のとおり

中期目標について資料のとおり

今年度の重点目標について資料のとおり

具体的な計画は、資料の半分から示しているとおおり

資料 3 ページ記載している目指す学校像について資料のとおり

9 学校の在り方について検討を行っていきたい。

- ・生徒の多様化・社会の変化
- ・キャリア教育と進路実現の強化

本校 93 人の生徒いるが、それぞれ 93 人の子供たちに応えていくことの再確認をしていく。社会の変化というところについて、ここ数年、受検者数が減っていることが主な変化となっている。職員の業務、それから健康確保について、時間外在校等時間の確認で働き方改革を進めていきたい。また、月 1 回、衛生委員会を進めている。以上、今年度の経営方針となる。

※質問・意見

→特になし

(2) 報告

- ① 令和 8 年度学校概要について・・・・・・・・・・ P 4 資料の説明
出身地域・・・例年どおり
資料記載のとおり

※質問・意見

C 委員：先ほど受検者数が減ってきているという意見が出ていたが、学年の推移をみるとだいたい 30 名程度で推移しているように見える。
定員は実際のところ、何人定員か。

学校より：1 学級 8 名程度で 4 クラスで、1 学年 32 名定員である。

入学選考があり、本校の基準をもとに選考を行っている。統計を取ってみると、受検者数がどんどん減り、倍率がどんどん下がってきている。

B 委員：高等支援学校は地域によって違うが非常に就職の実績も高く、倍率も高いイメージがある。中学校からの進路の選択が変わってきているのか。

学校より：平成 29 年度より前までは、中学校の特別支援学級の生徒の 7 割は特別支援学校の高等部に進学していたが、令和 3 年度より逆転し、現在のところ 7 割の生徒が高等学校に、3 割の生徒が特別支援学校高等部に進学する傾向となっている。本校は中学校の特別支援学級からの入学が多いのでその影響が顕著に表れている。

東北地区や関西の支援学校で同じ状況があると聞いた。適正な就学が一

番であるので、教育相談でその子に見合った就学先を相談しながら入学する、入学しないを考えていくことができる。見学していただいたとおり、入学して力をつける生徒も沢山いる。本校の良さをPRしていきたい。

② 令和8年度具体的方策に関する数値目標について・・・P5 資料の説明

【説明を要する箇所 等】

- 3 進路希望を実現
- 5 開かれた学校づくりを推進する
- 6 教職員の質的向上を図る
- 7 満足度

※質問・意見

C委員：4の進路指導に関する学校評価という項目で、上段と下段の2行に分かれているが、見方について教えてほしい。

学校より：上の段が生徒で、下の段が保護者という内訳となる。

B委員：3 進路希望を実現する 項目3の定着率についていつ時点のものか。また、令和7年度の報告、実績から目標数値が令和8年度が低くなっているがその理由について教えてほしい。

学校より：定着率に関しては1年定着率ということで記載している。
一般就労達成率の目標は、それぞれの年度によって生徒の希望に合わせて立てている。

B委員：1年後の定着率97%、94%は個人的に高く感じるが、支援学校ではどのように受け留められているか？

学校（進路）：100%を目指しているが、高等学校の話を伺うと本校はしっかり定着できているように思う。
日々の学習と卒業後の定着に向けたアフターフォローが重なって数値に表れていると思う。

③ 令和8年度の主な行事について・・・・・・・・・・P6 資料の説明

資料のとおり

④ 令和8年度いじめ防止基本方針について・・・・・・・・・・P7～12 資料の説明

本校はいじめ防止対策推進法という法に基づいて本校の学校いじめ防止策基本方針を策定している。

I いじめの問題に対する基本的な考え方について説明

いじめの定義について確認

II いじめの未然防止のための取組・・・重大事案が発生した際、対策委員には運営協議会の皆様も構成員として招集となる

III いじめの早期発見のための取組について説明

IV いじめの問題に対する対応について

V 重大事態への対処・・・重大事態について法第 28 条について説明

VI 学校評価・・・学校評価にもいじめに関する項目を組み込む。

P12 R 8 年度いじめ早期発見・早期対応のための年間計画について

先週、第 1 回目のいじめアンケート調査を実施した。

いじめに係る職員の研修会を県教育委員会から講師を招いて実施する予定である。未然防止の取組では、生徒総会で生徒同士の話し合いやマモル学習（マナー・モラル・ルール）を定期的に年 7 回予定している。また、年 2 回いじめアンケート実施を予定している。

※意見・質問

→特になし

⑤ 令和 7 年度卒業生進路状況について・・・・・・・・・・ P13 資料の説明

進路の内訳は資料のとおり。

今年度の 30 名の卒業を予定している。現時点で一般就労希望 24 名、就労移行 2 名。就労支援継続 B 型 4 名である。前期の実習を経て振り返りをしながら進路実現を図っていききたい。

※質問・意見

→特になし

⑥ 令和 7 年度特別支援教育センター業務状況について・・・・ P14 資料の説明

中学 2 年生見学は、令和 6 年度から中学 2 年生を対象を絞って実施している。その他、センター業務は 9 つ並行で業務を推進している。R 7 年度は事務職員を対象とした特別支援の研修会を開催した。

教員のみならず、あらゆる職種の方に特別支援教育の視点が少しずつ広がってきていることを実感している。今年度も地域のニーズに即したセンター業務に努めていく。

※質問・意見

B委員： 今、中学校の特別支援学級から一般の高等学校に進学するケースが増えている。私どものところにも高等学校の進路の先生から一般就労を希望している障がいのある生徒さんへの対応について問い合わせが多くなっている。進路指導に関する中学校へのご相談や進路指導についてどんな状況か聞いてみたい。

学校（相談支援）： 中学2年生見学の際、進路選択で悩んでいる保護者や担当の先生方の相談をしているケースもある。また、訪問支援の中で進路相談を受けることもある。

学校（進路）： 就職先が決まったが、サポートの仕方が分からず、移行支援会議の進め方や資料の提出の仕方など支援学校のノウハウをアドバイスするケースがあった。

B委員： 峰南高等支援学校だけの問題ではなく、高等学校に行っても、特別支援教育の考え方で同じ支援が受けられるようになってほしい。また、アセスメントや実習など行う機会がなかなかないので、高等学校に行った後でもきちんと支援を受けて進路が実現できるように一緒にやっていければいいと思う。

学校（校長）： 特別支援学校は地域の特別支援センター校なので、高等学校の先生に特別支援学校のアピールが届いていないかもしれない。保育園・幼稚園、小学校からは要請が来る。高等学校からはほとんどない。高等学校でも支援の必要な生徒に支援をしてあげたい。圏域のネットワーク会議などに高等学校の困っている先生に参加してもらい、情報共有していければと思う。うまくPRし、繋がっていけるように頑張っていきたい。

6 委員から提言

<A委員>

- ・学校の数値目標が高く、先生方の日頃の取組が数値に表れていると思う。これからも子供たちに寄り添って行ってほしい。私たちも中学校から高等学校への進路指導する際、十分に保護者と話し合いを重ねて検討し、生き生きと生きていけるように支援していきたい。

<D委員>

- ・就労選択にも関連するが、子供たちが将来を選択する機会となる。制度が追いついていか

ない状況ではあるが、盛岡峰南を中心としながら支援学校から高等学校への障がいのある生徒の就労に向けてサポートしたり、10月から始まった就労選択支援をうまく活用したりして行ってほしい。

<B委員>

- ・このような会に参加するのは初めてで大変勉強になった。何よりも生徒が生き生きと学んでいることを感じる事ができた。障がい者雇用率が2.5%から2.7%に引き上げになり、企業からの相談が増えている。企業がまず働くイメージをもてないケースが多いので、支援学校の見学を勧めている。挨拶をしっかり行い、こんな子が会社に来てくれたらと思ってもらえることも多いので、引き続き、特別支援教育と就労支援と立場は違う。県内の障がい者の就職の実現に向けて連携を深めて参りたい。

<C委員>

- ・見学することを楽しみに来た。保育園での交流の練習など見ていると、自分らしく小さい子供たちが飽きないように練習していく様子が見られてよかった。今回は生徒が自分たちがやっていることを説明する姿を初めて見る事ができたので、外部からお客さんが見学にいらしたときに生徒たちが説明する形をとると企業からの良い印象をもってもらえると思う。

<E委員>

- ・現在、小学校のスクールガードで登校の見守りをやっている。集団登校についていけない子どもたちが出ている。孤立しないように校長先生が迎えに行ったり、付近の人たちが声を掛けたりしている。高校生の中でも孤立がいじめにつながっていると思うので、その部分にも着目しているか気になった。2つ目です。クリーニング班の様子を見学して、今日はエアコンをかけるくらい暑くなかったが、他の教室よりもアイロンをかけるため暑さを感じた。生徒たちが暑いと訴えることができるのかと思った。3つ目はクリーニングの教室にあるシーツ用のベルトコンベアについてである。巻き込まれた場合、重大事故につながるかもしれないので、事故が起きた際、触れば電源が落ちるような仕組みになっているのか、また、誰が電源を落とす係になっているかなど、安全面についても教えて行ってほしい。

<F委員>

- ・いつ見てもワックスがかかっていて綺麗な学校であると思った。授業中は良い姿勢で受けていて、これが社会に出てからとても役に立っていると実感した。仕事に対する姿勢と責任感を身につけていただいてありがとうございますという気持ちでいっぱいである。今日はありがとうございました。

○諸連絡

7 閉会